

ユダヤ教最高研究機関が3つあった。今で言うと、1つの国の中に、ハーバード大学とオックスフォード大学とソルボンヌ大学が揃ってるみたい。ユダヤ教の三大トップ大学が揃っているような帝国、それがササン朝ペルシアだったんです。そんな環境の中でバビロニア・タルムードが編纂されていきました

西の東ローマ、東のササン朝ペルシアは当時の世界の二大超大国です。超大国の間に大きな太平洋を挟んでいるとかじゃなくて、川1本挟んでいるだけですわ。だから、この2つは2世紀にわたって覇権争いするんです。そして、これからどうも東ローマ帝国が落ちて行くというときに、新興のササン朝ペルシアが出て来る。東ローマ帝国のユスティニアヌス皇帝（在位527-565；非常に強い皇帝です）の時代に、ササン朝ペルシア史上最高の名君・強力な王、ホスロー1世（在位531-579）が登場します。

この2つが614年にとうとう大激突しました。ササン朝ペルシアVS東ローマ帝国が真正面から大戦争。そのとき、ササン朝ペルシアにいたユダヤ人たちはペルシア軍の一員となり、先頭に立ってローマに突撃して行ったのです。彼らはいったい何を期待していたのでしょうか？

“東ローマ帝国の中にいるユダヤ人たちは「もはやローマに立ち向かっても無理だ」と心折れているけど、ササン朝ペルシアの力を使ったら倒せるかもしれない。あわよくば、かつて自分たちの先祖が住んでいた約束の地をササン朝ペルシアが取り戻して、ササン朝ペルシア内の自治共和国みたいな立場を頂けるかもしれない…”という希望にすがって、凄まじい戦争をおっぱじめてしまうんですね。

ところがこの2つの国は、大戦争を繰り返していく中で・激突していく中で、ほぼほぼ同時に突如として、両方とも国力がガーンと落ちて行き、もはや戦争している状態ではなくなってしまうんです。

ある大異変がこの2つの大国にほぼ同時に起こった。いったい何が起こったんでしょう？

恐怖の伝染病ペストの蔓延です。ペストは4つのものが揃って、初めて人間界に蔓延します。

①ペスト菌 ②ノミ ③ノミを運ぶクマネズミ ④人間。この4つが揃うとペストが感染爆発起こします。

ペストは元々インドで始まりました。当時 インドと船で交易してて、交易の港がエジプトだったんです。エジプトは東ローマ帝国の一部でした。インドから来た積み荷の中に、ペストに感染したノミが付いたクマネズミがいる。それがエジプトに上陸する。エジプトに住んでいる人たちがペストに罹る。エジプトは東ローマ帝国の一員で行き来があるので、あっという間に東ローマ帝国中に蔓延し、ローマ軍団にも広がってしまった。

ペストに感染しているローマ軍は、そのままササン朝ペルシアの軍隊と肉弾戦をやりました。

その接触の中で、ササン朝ペルシアの兵士たちも大感染するんですね。文字通り感染爆発の状態。

どれほどの酷さか？ 東ローマ帝国の人口の4割がこの病気で消えました。国民の4割が消滅するんです。

国力がいきなりドーンと落ちるんですね。戦争なんか、やってる場合じゃないですよ。

ササン朝ペルシアは記録が残ってないから、どれくらいの被害があったか分からない。

分からないけど、非常に激しい甚大な損害だったことは間違いない。

こうして、東ローマ帝国もササン朝ペルシアも、互いの兵力によってというよりも、この恐怖の伝染病によって人口の大半が激減してしまった。戦争やってる状態ではなくなった。国力が駄目になってヨレヨレの状態になった。そのときに、アラビア半島からイスラム軍が入って来て、両方ともぶっ倒したんです。

これが、イスラームが短時間で世界宗教になり、世界制覇できた最大の理由です。つまり、伝染病によって、世界史の流れが変わってしまったということなんですね。イスラム軍はわずか10年以内にササン朝ペルシアを完全制圧します。そして、ローマ帝国もあっという間に抑え込んで行くんですね。ものすごい勢いで。2つの大国はなすすべもなかった。というか、抵抗できる力がなかったんです。

不思議なのは、なんでイスラム軍がこれに罹らなかったのか？ 彼らは宗教上の行事で、とにかく手洗い
というか、水で清めることを頻りにやるんですね。衛生的に、それがプラスになった。
伝染病では、衛生的に清潔に保つことは非常に大きな防御になるんですね。

それはともかく、この2つの大国がヨレヨレになっていたので、新興勢力のイスラム軍があつという間に
広がって、かつてユダヤ人たちが押さえ込んでいたイスラエルの地（当時はパレスチナと言われていた
地）を、イスラム・アラブ人たちが押さえるんです。パレスチナの土地をアラブ人が押さえるのは、この
ときが初めてです。

そして、このときから435年、アラブ人の支配が続くんですね。アラブ人がイスラエル/パレスチナの地
を支配するのは435年だけです。この後ありません。435年きっかりです。この期間だけ、アラブ人が
この地域を支配するんですね。実はこの期間も、ユダヤ人たちはイスラム・アラブ人の支配下の地に帰
って住んでいたんです。ところで、このパレスチナの地はその後どうなるのでしょうか？
それはまた、次の『ごうちゃんねる』でご紹介したいと思います。

疫病が世界の流れを・構造を完全に壊してしまうということが、実際に世界史の中で何回も起こって来た
んですが、過去起こっただけではなくて、これからも起こります。
現に、今回の新型コロナウイルスによって、なんと世界は変わってしまったのでしょうか。
中国はそれを発生させた国ですが悪びれることなく、これを世界中に振り撒くことで、却って自らを世界
強国にするために利用していますね。疫病は世界の構造を変えてしまうんです。

聖書の預言の中に、そのことを示唆する言葉が出て来るんですね。
聖書の預言によると、やがて人類は非常に厳しい時代に入ります。これが“患難時代”で7年間続
きます。患難時代は前半の3年半と、後半の3年半の2つに分けることができますが、この7年間のこ
とを非常に細かく・精密に預言している箇所が、聖書全体の最後の書簡**ヨハネの黙示録**です。

ヨハネの黙示録に、前半の前半、すなわち患難時代に入ってから21か月間に、人類に起こることが書
いてあります。結論から言うと、4つの理由で、21か月の間に世界人口の1/4が消える（死滅する）と
書いてあるんですね。

ヨハネの黙示録 6:8

私は見た。すると見よ、青ざめた馬がいた。これに乗っている者の名は「死」で、よみがそれに従っていた。
彼らに、地上の四分の一を支配して、剣と飢饉と死病と地の獣によって殺す権威が与えられた。

地上の1/4がここで死ぬのですが、死ぬ原因が4つあって、**剣と飢饉と死病と地の獣**。

21か月の短い期間に1/4という多くの人口が減る。「そんなのあり得ないじゃないか」と、初めてこの
箇所を読んだ方は思うかもしれませんが、人類史上でそんなことは何回もあったんです。

剣は戦争。**飢饉**は文字通り食糧不足。天変地異によって作物が出来ないことも関係するでしょう。
死病は伝染病と取ることも出来ますが、原文では死そのもの。死と書いてあります。そして**地の獣**。
死病は疫病と捉えることも出来ますが、私が注目するのは、獣によって1/4が殺されるという言葉です。
獣と訳されている言葉はギリシア語で“セリオン”。獣と訳してもいいんですが、“生き物”と訳すことが
出来るんですね。

ところで、人間は年間にどれくらい、生き物の攻撃を受けて命を落としているのか調べてみました。

毎年 犬に噛まれて亡くなる方が、平均値で 2 万 5 千人おられるそうです。ほんとに思い掛けないことですね。私も犬に噛まれたことがあります。死ぬということはホントに考えにくい。だけど実際、世界では毎年平均 2 万 5 千人の方が亡くなっている。

ところが毎年毎年、8 万人もの人々の命を奪っている生き物があるって言うんですね。それは毒蛇です。手当てが間に合わずに命を落としている人が 8 万人もいる。毒蛇。ヘビによる被害があるんです。そして、それをはるかに上回る 40 万人の人々を襲っている生き物がいます。人間です。殺人事件です。40 万人が殺されています。

しかし、もっともつとすごい、40 万の倍数 80 万人の命を失わせている 恐るべき生き物がいるんです。何だと思いませんか？ 蚊です。モスキート。「えっ、蚊で人が死ぬの？」マラリアですよ。

蚊が吸血するとき、マラリア原虫を皮膚の中に埋め込むんですね。マラリアの特効薬が手に入らないために、命を落としてしまうことがあるのです。

今世界を悩ませている新型コロナウイルスは、元々はコウモリに寄生していたウイルスではないかと言われてますよね。だから、コウモリによって殺されたということも出来るんじゃないですか？

ウイルスは、今の生物学の定義によるなら、生物と言わないんです。今の生物学の定義では、自己増殖することが出来ないものは生物と言わないそうです。ウイルスは、それだけでは自己増殖できないんですね。他の生き物の細胞の中に入り込んで初めて、その中で増殖することが出来る。だから、微生物という範疇に入るんです。生物ではなくて微生物。

だけど、聖書は生物学の本じゃないんです。DNA や RNA を持つカプセルのような微生物。そして、その微生物を持っている生き物（コウモリや野生の様々な動物）から移る病気によって、人類はものすごい被害を受けて来ました。

14 世紀の世界人口は 4 億 5 千万人くらいと言われてます。この 14 世紀、特にヨーロッパを中心にペストが蔓延しました。その結果 1 億人の方が亡くなったのです。4.5 億人に対する 1 億人だから、大体 22%、2 割以上の方が亡くなった。特にイギリス・イタリアに限定すると人口の 8 割が消えた。2 割しか残らなかったんですよ。もう国が変わってしまいますね。ヨーロッパを平均すると、2/3 が亡くなったと言われてます。人口が激減するということは伝染病によって実際にあった。それは 1 回や 2 回ではなくて、色んな国々で、色んなことが起こって来たわけです。

今私たちは、この新型コロナウイルスで 1 億人を突破する人たちが感染した、ということを見ています。その結果、世界経済が変わり、世界の動きが大きく変わっていくのを目の当たりにしているんです。それは、これから世界が突入して行くことの小さなひな型として、私たちに見せているような気がします。

聖書の預言は、いつも必ず実現して来ました。前もって預言しているのは、そこから逃れる手立てがあるからです。聖書の預言はいつも警告と同時に、そこから逃れるための救いのメッセージを伴っています。患難時代に入らずに、自分の創造主と和解する道が聖書によって提示されています。

それは、創造主が用意してくださった、あなたのための救い主イエス・キリストを信じることなのです。ぜひこのシリーズを通して、聖書の真実性をまずご確認ください。

そしてぜひ、聖書が提示している根本解決をしてくださるよう、心からお勧めしたいなと思います。

それではまた『ごうちゃんねる』でお目にかかりましょう。それまで皆さんお元気で。さよなら!!

* 使用した聖書は『聖書 新改訳 2017』です。